

# 南アメリカ：経済発展と環境保全との間で

～世界の諸地域学習との関連～

山口県公立中学校教員

### 1 単元構成

本稿では、南アメリカを事例として「習得と活用」や「動態地誌」を意識した移行期における世界の諸地域学習の構想と展開について紹介する。単元構成は、次の通りである。

| 時 | 題材名         | おもな学習活動                           |
|---|-------------|-----------------------------------|
| 1 | 地域の大観       | ○基本図で大観する。<br>○主題図で大観する。          |
| 2 | 主題の設定       | ○アマゾン川流域の森林破壊の事実を知り、その要因を調査・考察する。 |
| 3 | 発表・討論・活動    | ○調査・考察した内容を発表し、認識を深めあう。           |
| 4 | ブラジルの経済発展   | ○ブラジル経済の50年を比較し、経済発展の要因を考察する。     |
| 5 | 地域のあゆみ・文化   | ○南アメリカ諸国の歴史や文化を調査・考察する。           |
| 6 | 他地域との比較     | ○北アメリカやアフリカのデータと比較する。             |
| 7 | 南アメリカの地域的特色 | ○南アメリカの地域的特色をまとめる。                |

「地域の大観」→「主題の追究活動」→「地理的事象の考察」→「地域的特色をまとめる

言語活動」という基本構造とした。

### 2 具体的な学習活動

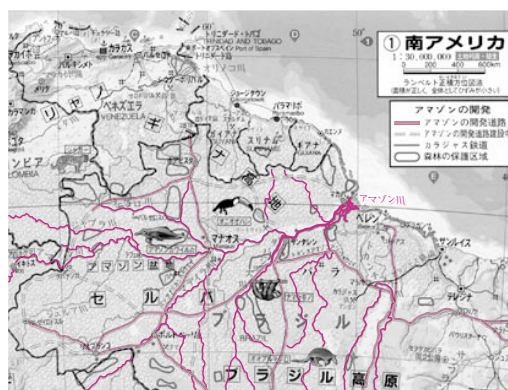
移行期の情報不足は、帝国書院発行の地図帳・資料集で補う。

『中学校社会科地図 初訂版』  
『もっと知りたい日本と世界のすがた』  
『中学校スタンダード地理資料・ワーク』

#### (1) 地域の大観

##### ① 基本図（地図帳p.58）で大観する

地誌学習においては、導入の場面で必ず基本図を活用して対象地域の全体を大観する習慣をつけたい。教科書が用意されていない移行期において、地図帳は必要不可欠な資料である。



『中学校社会科地図 初訂版』 p.58

この作業において、生徒はアマゾン川とその周辺に取りつけられた開発道路の広がりを感じた。日本の高速道路網の広がりと比較させることでより理解が深まった。

② 「生活と環境」で習得した内容を活用して大観する

「世界の諸地域学習」において、「生活と環境」に注目した地域的特色を考察する学習が効果的であった。「暑い地域」「寒い地域」「高い地域」「乾燥した地域」「日本と気候が似た地域」などの視点を設定して生活と環境について考察させることによって、地域的特色を大まかにつかんでいった。

移行期においては、入手可能な写真などを使ってその写真がどの気候区分に属するかを比較しながら考察させるしかない。

南アメリカでは、熱帯雨林気候やアンデスの高地が注目されがちであるが、温帯や乾燥帯の生活にも注目させる必要がある。

このように写真資料を活用することによって、生徒は南アメリカのイメージを高めていった。

(2) 主題の追究活動

本單元では、

「どうして、アマゾン川流域で、森林破壊が進むのか」

という主題を設定し追究する時間を設けた。

地図帳p.15～16の主題図「世界のおもな環境問題」を使って、地球上で進行しつつある環境破壊の現状を世界的視野から確認する中で、南アメリカの現状について気づかせていった。

次に、この主題図の脇に配置されている「⑥ 牧場開発のために焼きはらわれた熱帯林」の写真から情報を読み取らせた。

③ パンバの牧場 (アルゼンチン、フエノスアイレス近郊)



↑1 イグアスの滝と周辺に広がる密林 (ブラジル、アルゼンチン)

「中学校スタンダード地理資料・ワーク」p.88



⑥ 牧場開発のために焼きはらわれた熱帯林 - フラジルー (1992年)

「中学校社会科地図 初訂版」p.16

この写真では、牧場と道路がセットで開発されていること、切り倒されていない場合も道路に沿っている樹木は大きなダメージを受

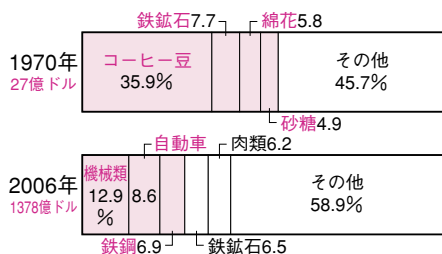
けていることを指摘する生徒もいた。

この主題の追究は、地誌学習の後に設定すべきであるという意見もあるが、筆者はその立場には立たない。授業では、子どもたちのニーズを高めることを優先することによって、知識の定着度が高まるからである。

### (3) ブラジルの経済発展

南アメリカの環境破壊を、単に経済発展の遅れととらえることは、正しい認識とはいえない。アマゾン環境破壊は、ブラジル全体の計画的な経済成長と密接な関連があることを理解させながら地域的特色の理解へと高めていく必要がある。

#### ① ブラジルの輸出品の変化



ブラジルの輸出品の変化 (貿易統計年鑑2006ほか)

この統計資料からも、この30年間にブラジル経済が、農業生産物や鉱産資源の輸出に依存する経済から、工業国のそれへと変貌していることは明らかである。

この学習は、主題学習後の地誌学習として行うが、環境破壊とも関連させて考察させると効果がある。

生徒に社会的なものの方・考え方を獲得させるため、貿易額の総額に注目させることも忘れてはならない。実際の授業では、貿易の規模のあまりの拡大に驚嘆の声が上がった。

#### ② 図書館の古い蔵書と新しい書籍の比較

図書館の蔵書(地理)の活用は、情報不足を補ううえでも、動態地誌的な地域的特色のとらえ方を獲得させるうえでも有効である。

次に示したのは、いくつかの書籍から得た1960年頃のブラジルの状況である。

##### ■ 1960年頃の実態

- コーヒーや鉄鉱石の輸出に頼る経済から脱却しようとしていること
- アマゾン川流域の低地を開発することを目的に、首都がリオデジャネイロからブラジリアに移転したこと
- 海外の資本に頼っているため、十分な利益が残らないこと



##### ■ 最新の情報からわかる現代の実態

- 機械類、自動車、鉄鋼がおもな輸出品であること
- 航空機産業や、コンピュータ関連産業など先端技術産業もさかんであること
- BRICs諸国の一員として、世界経済にも大きな影響を与えていること

生徒は、成長の要因に対して興味をもつとともに、環境破壊との関連について考え始めた。

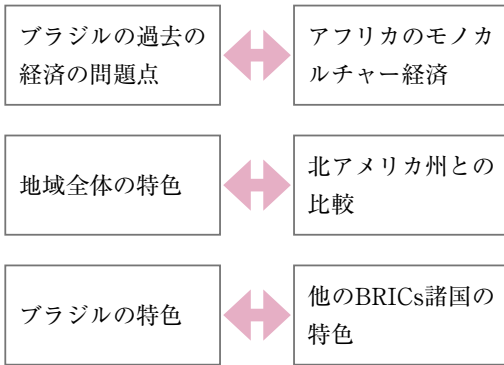
#### ③ 開発と成長の歴史

アマゾン環境破壊とブラジルの経済成長の関連は、首都ブラジリアの建設に象徴される。ブラジルは、南部の温帯地帯から北へと開発が進められた。豊富な資源の宝庫であ

る北部の高地や、熱帯林を開発するためには、新首都ブラジリアの建設は、北部開発の大きな一歩となった。

(4) 他地域の学習成果の活用

地域的特色を理解するためには、複数の地域と比較することが効果的である。時間に余裕があれば、できるだけ多くの地域と比較させたい。



① モノカルチャー経済からの脱却

先にも述べたが、過去のブラジルは、まさにモノカルチャー経済そのものであった時期がある。生徒は、この経済の問題点を確認するだけでなく、この経済からの脱却をめざすことが環境破壊という大きなリスクと背中合わせであることにも気づいていった。

② 北アメリカ州との比較

南北両アメリカ州は酷似したあゆみをもつと感じる生徒は多い。そこで、両州の地域的特色を比較させることによって、地域的特殊性と一般的共通性を明らかにすることが可能となる。

③ 他のBRICs諸国との比較

ブラジルと同時期に成長した他のBRICs諸

国と比較することも効果がある。これらの国に共通するのは、鉱産資源が豊富なことと、それぞれの国の人口が大きいことがあげられる。

(5) 南アメリカの地域的特色をまとめる言語活動

地理的分野における一般的な言語活動として、学習した地域的特色をまとめる作業に取り組ませている。

|          | 生徒が挙げた内容   |
|----------|--|
| 位置       | 南半球、北アメリカ州の反対側<br>太平洋と大西洋の間                                  |
| 生活と環境    | 北部に暑い地域、西部に高い地域<br>中部に日本と気候が似た地域<br>南部に乾燥した地域                |
| 主題       | 工業発展の過程で熱帯林の伐採が行われた。<br>熱帯林で暮らす少数民族の生活の保障の問題も                |
| おもな地理的事象 | ブラジルの機械生産、コーヒー栽培<br>様々な地域の特徴が融合した生活・文化<br>高い地域の生活<br>豊富な鉱産資源 |

3 おわりに

生徒の地理的認識を豊かにするためには、既習の地域の学習成果との比較が不可欠である。南アメリカの学習は後半に設定されることが多いので、多様なパターンを用意したい。また、日本の諸地域の学習との関連も図りたい。